

全日本アド連たより



発行・編集

全日本青少年育成アドバイザー連
合会事務局：愛知県春日井市神屋
2298-434

(0568)88-1050

地域を担う中核指導者の養成 学び交流したアド養成講習会

平成25年 2月15日～17日開催：(財)愛知県青年会館



新受講者対象のカウンセリング実技で傾聴のロール・プレイングをおこないました

青少年の心身の発達過程を理解し、その健やかな成長と自立を支援するための専門的な知識や技術を学び、地域における日常的な各種青少年育成活動の中核となる指導者の養成を目指し、全日本青少年育成アドバイザー連合会主催、愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会主管で、平成24年度青少年育成アドバイザー養成講習会を名古屋市中区の(財)愛知県青年会館で開催しました。

全国から期間中、新受講者48名、既アドバイザー34名、計82名が参加し、多くを講義で学び、参加者の熱き思いをグループワークや交流会で交換し、思い出に残る講習会となりました。

今後アドバイザー認定のための小論文の提出、県アド会長の推薦を得て、認定委員会の審議を経て、新アドバイザー(第2期生)を誕生させていく予定です。

この講習会は、(社)青少年育成国民会議が平成21年に財政的に行き詰まり解散し、青少年育成国民運動の地域の担い手である青少年育成アドバイザーの養成ができなかったため、当会が、内閣府や全国青少年育成都道府県民会議等連合会、愛知県などのご支援をいただきなら自ら養成しようと開催いたしました。

H24年度青少年育成アドバイザー講習会特集

平成24年度アド養成講習会を終えて

全日本青少年育成アドバイザー連合会長 宇野 晃



過日の2月15日～17日2泊3日で、(財)愛知県青年会館で皆様方のご協力をいただき青少年育成アドバイザー養成講習会を開催し無事に終えることがで

きました。

はじめての全国展開で不安もありましたが、全国から新受講者が48名(沖縄県5、鹿児島県1、広島県3、和歌山県3、富山県4、千葉県1、岩手県1、岐阜県4、愛知県26)、既アドバイザー34名、計82名の方々にご参加いただきました。

講習プログラムも旧(社)青少年育成国民会議が養成したものと、ポリュウム的には弱い面がありますが、限られた時間でありましたが青少年育成に造詣の深い専門家の先生を多数お招きし、旧通信教育テキストの基本に沿うようにしました。

また、ネット社会に対応する青少年育成施策の国の担当者や市民の目線で活躍されている専門家の先生もお呼びし、時代に対応する課題も取り上げました。また、既にアドバイザーとして長年務められ、実践活動においても顕著な活動をされている同志も、講師として、グループ別の司会者としてお願いいたしました。

昼間の座学、夜のグループワークや任意な交流会と、とても欲張った講習会といたしました。これも、理事会の皆さんの「充実した中身で育てよ」と要望された意向を汲んだものであります。

「多岐にわたりながらも非常に分りやすく突っ込んだ内容で笑いもあり、今後それぞれの地域活動の中で大いに参考になり生かせるのでは」、「全国から集まった人たちの青少年育成に対する熱き思いに感動した」という声が多くあり、一方では、座学が多い、宿泊施設が古く不便だといった声もありました。

2泊3日という初めての事業で至らぬことが多々あり、今後活かしていきたいと思えます。

今回の事業を通じて感じたことは、全日本アド連加盟青少年育成アドバイザー県組織が健在で、都道府県民青少年育成会議との連携が強くなっていないといけないということです。今回の講習会で12名の方が市町の予算で参加していました。県民会議が市町村に募集要項を送り、受講者があっても、県組織がないとか、全日本アド連に加入していない場合、アドバイザー認定の推薦者がい

ないことになるからです。

ない場合、全日本アド連が推薦するという手がありますが、実際に活動する場合は県、市町村にあるから、地元の会に入って一緒に活動して欲しいと思っているからです。この課題は全日本アド連の組織活動として議論していく必要があります。

また、新しいアドバイザーを認定していくことで、その期待に応えるべき組織や活動にしていかなければならず、現在、アドバイザーの役割として①地域の「隣のおじさんおばさん」としての地道な取組み、②青少年育成組織にかかわり、活性化プログラム企画への支援、③課題解決のための地域連携推進、④青少年育成都道府県民会議を始め市町村民会議を支援し運営基盤づくりに力をそそぐこと等としていますが、実際にどのような実践活動か示す必要があります。そのためにブロック持ち回りの研究集会は重要な役割を果たします。

今後、青少年育成アドバイザーの認定は、総会・理事会の決議に沿い、養成講習会後に、小論文の提出、県アド会長の推薦、認定委員会の審査と手順を踏み、5月には第2期生を誕生させていきたいと準備を進めています。

そして、認定後は各県アドバイザー組織に加入し、時代に対応した各種青少年育成活動を展開されることを願っています。

なお今回、後援を全国青少年育成都道府県民会議等連合会、愛知県、愛知県教育委員会、愛知県青少年育成県民会議、愛知県青少年団体連絡協議会、(財)愛知県青年会館からいただき、内閣府から講師の派遣で協力していただきました。

関係各位に感謝を申し上げ今年度も引き続きご協力いただきますようお願いいたします。



代表者に修了証を交付しました

【平成24年度青少年育成アドバイザー養成講習会内容】

開会式 主催者挨拶 全日本青少年育成アドバイザー連合会会長 宇野 晃
来賓挨拶者



来賓として愛知県
県民生活部社会活
動推進課長
村瀬 誠一様より
激励と歓迎の挨拶
がありました。



全国青少年育成県民
会議等連合会長のメ
ッセージを代読する
同理事の岐阜青少年
育成県民会議会長の
松原 登様

プログラムの概要

★ 第1日目 ★

講義① 子ども・若者育成支援推進法に基づく地域協議会の取組みを学びました。（40分）

講師：愛知県県民生活部社会活動推進課主幹 伊藤 弘憲



受講者に講義する伊藤弘憲主幹

【要旨】：ニート・ひきこもり等、自立に困難を抱える若者は、単一な問題ではなく複雑な問題を抱えていて働けない状態にあります。問題の芽が生まれる学校段階で学校と支援機関が連携し、不登校・いじめ・児童虐待等の早期対応が効果的です。

新しい問題への対応が社会的に必要なになり、すべての子ども・若者と20代・30代で困難を抱えている子ども・若者を支援する大きな柱立てとして、子ども・若者育成支援推進法という法律が制定され、平成22年4月から施行されています。

このような課題解決を図る仕組みとして、さまざまな支援機関とNPO法人、民間団体などが連携し、問題に最後まで寄り添い対応し、就業や就学等の円滑な社会生活を目指して連携していくネットワークとして、子ども・若者支援地域協議会が登場しました。

市町村にこの協議会が設置されることにより、子ども・若者育成支援がきめ細かく行われることを目指しています。

困難や課題を抱える若者を放置、孤立させないこと、若年時から生活困難者を増やさない為にも、皆さんと共に地域社会の支えとなっただき、未来を担う若い世代が、社会に向けて出ていく力の支援を引き続きお願いいたします。（記録係 渡邊美智代）

講義② 青少年の発達過程の特徴と課題について学びました。（110分）

講師：愛知教育大学教授 大村 恵



【要旨】「親はなくとも子は育つ」とは、地域（社会）がなくては子どもは育たないということですが、このことが言われなくなったのは、地域や社会が子どもに責任をもっていく文化を失ってきたことと関係があります。

日本の子どもの発達の特徴は、社会や集団における決まりの縛りが強く、自分で判断し良いか悪いかを決め、行動することが遅く現れてきま

す。これは自分の判断ができる大人に、学校や地域の中で出会うことによって、自分で判断し行動できるように発達を遂げます。

子ども・青年達が育つのに必要なことは、産業・文化等が学べる環境があり、自立的に育つことに寄り添い共感・評価をし、承認して、お互いに育つということを支え合う大人が必要です。

いろんな人との関係を豊かにすることで、自分の存在を安定させ、何かに取り組む原動力が湧いてきます。地域に承認の回路、繋がりを豊かにしていくことが子ども・青年達にとっての発達の条件になります。

地域の中でどのような可能性があるのか、どんな子ども・青年達が育っていくのか交流していただきたいと思います。（記録係 渡邊美智代）

講義③ 青少年育成にたずさわるボランティアの現状とあり方、青少年育成アドバイザーの今日的役割を学びました。（90分）

講師：群馬大学名誉教授、元アド養成研修チューター 萩原 元昭



【要旨】ボランティア活動とは、自分の意思で原則として無償制ですが、経済的な基盤が無視できない状況になっておりますので、一部有償ということが課題になっております。教育・文化・国際すべてに対して自分の労力、技術、時間を提供し、他の人、団体、行政に対して行う援助活動と広い意味で捉えておきます。

研修や学習を介して自分を磨きながらボランティア活動のパワーアップを図り（成果活用型）、相互に学習することの大事さがボランティア活動の中に入ってきています。

青少年育成アドバイザーの役割として、子どもたちが自分の地域に愛着を持ち、誇りを持ってもらうには、子どもたちが主体で自発的に計画をし、仲間と一緒に実践していく活動の中で、関わる大人は過保護、過干渉な接し方を慎み子どもたちの求めに応じ、自立的にできるよう支援し、それを継続していくことです。

皆さんが火付け役となり、地域の人たちの青少年に対する考え方をレベルアップする機会を積み重ね、良い方向へ意識を誘導していくこと（成人教育）が、明日への街づくりや村づくりへの大きな力になります。（記録係 渡邊美智代）

情報交換会④ 受講生と現青少年育成アドバイザーが今活動していることについて発表し語りあいました。（90分）7グループの中の第1グループを紹介します。

司会者 荒井 勲（全日本青少年育成アドバイザー連合会副会長）

司会者

皆さん、遠いところから参加して頂いてご苦労様です。まずは自己紹介をしてもらって、言い足りない人はまた、2回目、回しましょう。名前と所属、それから何をやっているか、くらい言いましょうか。

Mさん

石垣市立青少年センターに指導員として勤務。ニート、引きこもり、不登校、不良少年等々、いろいろな悩み、トラブルがあり、学校に行けない子どもたちが通って来ます。愛知県のような『若者サポートステーション』はありません。

Zさん

キャリア教育に関わっています。母子支援センターに勤務し母子支援、DV被害の方の心のケア、就職に向けての相談、自立に向けての様々なサポートを行っています。



自己紹介をする第1グループの様子

Aさん

接骨院を経営しています。PTAから始まって児童クラブの会長、県の補導委員長を引き受け、青少年の健全育成に関わっています。親子で体験をさせたくてNPO団体を作りゴムボートで川下りや自然体験を行っています。今まで準備は主催者側でやっていたが、自主性を持たせるために、これからは計画から関わって行けるようにしていきたい。

Tさん

福祉事務所で相談支援を行っています。母子家庭の子どもに対しての教育の必要性、どのように支援していけばよいのか考えています。行政側の情報収集不足でサポートステーションとの連携がうまくできていないので、改善策を考えているところです。

Nさん

民生・児童委員の活動に役立てればと参加しました。青少年育成アドバイザーの資格を頂きながら身になる勉強をしたいと思っている。

Sさん

公民館で少年指導員として、いろいろな相談に乗っています。社会福祉主事の資格を持ってやっています。

Kさん

老人会は1,000人以上で組織され、子ども会は120人という子どもを大事にしてくれる地域で暮らしています。私の子どもが『夢配達人プロジェクト』に応募し当選しました。「夢を想うと必ず叶う。」と言い続けてきて良かった。人は一人では生きていけません。夢を信じ、語り合うことが大切だと感じています。

Iさん

資格認定は25期。新潟のアドバイザーの組織が他の地域と少し変わっている。この研修の報告をするように言われているので帰ったらみんなを集めて行う予定です。

Oさん

市役所に勤務しています。青少年育成とは関係のない課です。私は青少年育成国民会議がなくなってしまい、勉強半ばで認定が受けられなかった者です。現在は地域や子ども会で活動を行っています。

Rさん

私はガールスカウトの子どもたちと関わりながら日々元気もらっています。この中でも荒井さんを筆頭に災害支援に携わられた方もいらっしゃると思いますが、災害が起きた時に、自分で火を起し暖を取り、煮炊きを行ったのは50歳以上の方と野外活動の経験者と聞いています。困った時に、どうするか。いかに工夫し解決に導くか。経験がものをいうと思います。子どもたちに『生きる力』を付けてほしいと願いながら活動を続けております。

司会者

では、最後に私、全国青少年育成アドバイザー連絡協議会副会長をやっとります。通称『ひまわりおじさん。』です。受付でひまわりの種をもらわれたと思いますが、それを全国に広めている。ここ青年会館の玄関に、たくさん写真を飾りました。被災地の高校生に考えさせました。結果、お礼の笑顔を送ろうということになりおじさんが撮りました。帰るまでに、是非見て下さい。では、明日は「こんなことがやってみたい。」という夢を聞かせて下さい。時間となりましたので1度閉めさせていただきます。(グループ書記 成瀬眞佐子)

★ 第2日目 ★

講義⑤相談・助言(カウンセリング)の基本と実践について学びました。(170分)

一身近な援助者としての 相談・援助スキルー

日本福祉大学教授(臨床心理士) 渡邊 忍



【要旨】★ ロジャーズのカウンセリングの基本的な考え方
人間観：人間は生まれながらにして自ら成長しようという能力を持っている。
人の成長に対する考え方：人は環境との関わりを通して自分自身の存在を知る。自分の自己概念をどう認知するかで、新しい自己概念を認識し

成長していく。

心理的な問題が起こる原因：自分が認知している自分と、環境の中で経験する自分との間の不一致が（理想と現実のズレ）怒り、不安、混乱などの心理的症状として現れる

カウンセリングの目的：クライアント（困っている人）が自主的、自発的に生きて、自分自身に自信が持てる人間になるように援助することである。

カウンセリングでの働きかけ：クライアントが自分の中で何が起きているかを自覚し、認識できるように働きかけていく。

☆ ロジャーズのカウンセリングの原則

- ・ クライアント自身の成長、健康、適応へ向かう欲求に絶大な信頼をおくこと。
- ・ クライアントの知的側面よりも感情的側面を重視する。
- ・ クライアントの過去よりも直接の現在の状況を重視する事。
- ・ カウンセラーとクライアントの関係そのものが、クライアントの成長経験と捉えること。

☆ カウンセリングの構造

カウンセリングを進めていく上で、大事なルール（枠組み）がある。このルールを守るとは、クライアントを守りカウンセラーを守ることに繋がる。

- ・ 面接時間や面接の場所

秘密が守られるような場所である事、面接は1回 40分程度が程よい時間。

- ・ 座る位置

座る位置も面接を進めていく上で大事な事。（対面法、90度や180度法）

- ・ 秘密の厳守

カウンセラーはクライアントの述べた秘密を厳守する。ただし、自殺をほのめかしたりした場合等は、例外。

この後、グループに分かれ実践的な傾聴、受容などのロールプレーを行った。

（記録係 村田靖子）

講義⑥国の進めるインターネット環境整備の現状と今後のあり方を学びました。（70分）

講師：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付参事官補佐（青少年環境整備担当）

本田 昭浩



【要旨】この法は議員立法で、青少年のネット利用を健全な環境にするために①適切なインターネット活用能力の取得（発達段階に応じた情報の取捨選択能力等）、②青少年の有害情報の閲覧機会の最小化、③民間主導（国等は支援）を基本理念としている。

「第4回子ども・若者育成支援推進本部（H24.7.6）」

子どもの健全な成長を促し、生きる力を育む為の様々な施策が昨年7月にまとめた「こども・若者ビジョン」に網羅されている。

他方、インターネット環境や携帯電話の機能は日進月歩に進化し、若者を取り巻く環境の変化は激しいものがある。「ビジョン」は不断の見直し、変化に即応しなければならない。

第1は、安心できる青少年のインターネット環境づくりで、子どもが新技術を吸収する力は大人の創造を超えている。携帯やスマホを持つ小・中学生も増加しており、青少年を有害な情報から守る社会全体の取組みに遺漏があってはならない。

今回の計画改定により、フィルタリングなどの体制を整備していく。

第2は、子ども・若者支援策の再点検・バージョンアップで、現場の方が若者当事者も入った有識者会議で、約1年かけて議論し、その改善提案や指摘を重く受けとめ、各大臣は今一度効果的に事業が行われているか、見直ししていく。

平成25年度内閣府概算要求（新規事業）

— 青少年インターネット利用環境に係る地方連携体制支援事業 —

{課題・問題点} スマートフォンなど新たな機器の出現により、青少年及び保護者に対して喫緊な問題が生じている。

{ 施策の目的 } 地方における青少年インターネット環境整備に対する国民全体の気運を高め将来は地域が自立的に青少年インターネット環境整備に向けた各種取組を実施する連携体制の構築に寄与する。

{ 施策の概要 } 内閣府と地方公共団体、地域の民間団体等、そして地域住民が一体となって取り組む体制を支援。①セミナー、シンポジウム等の開催②研修提案型③キーパーソン研修で普及啓発を行う。

経過等詳しく知りたい方のために 参照リンク及び連絡先

- 内閣府Webサイト
共生社会政策統括官 青少年育成（インターネット環境整備）
<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/contents.html>
- 連絡先：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付
青少年インターネット環境整備推進担当
電話： 03-3581-9279
FAX：03-3581-0992 （記録係 村田靖子）

講義⑦インターネット時代の子育て教育に必要な知識を学び、家庭、学校、地域での実践活動の具体策を学びました。（110分）

「インターネット時代の子育て－健全育成リーダーの役割－」

講師：群馬大学名誉教授 NPO青少年メディア研究協会理事長 下田 博次
講師 下田 真理子



【概要】子ども達がインターネット端末を利用し、これまでには考えの及ばなかった様々な非行や犯罪に会っている。しかし周りの大人（保護者）達はインターネットの危険性を十分に理解していない（気付いていない）。

子ども達をこの危険から守るにはどうしたら良いか。

昨年7月マスコミでも報道された、アメリカのホフマンさんが13歳の息子へのクリスマスプレゼントとしてiPhoneを贈る際に一緒に添えたという「ホフマンさんの18の契約書」を紹介され、「親の買ったもので、貸し与えているもの。騙すため使用しない」等あり、子育ての責任は親にあるとの信念があり称賛する。

インターネットは自己責任の世界であり、指で操作するのが能力ではない。子どもに必要なのは判断力・自制力・責任能力の三つの能力であり、この能力が未熟な子どもにはなく大人の見守りが必要とされる。

子どもが利用するインターネット端末（携帯電話、スマートフォン、ゲーム機など）にフィルタリングをかけるだけではなく、大人（保護者）がインターネットのリスクを十分に学び、子どもに携帯等を持たせる場合は子どもへの注意・見守り・指導が大切。子どもの日常の小さな変化も見逃さないことが重要であり、この一連の営みがペアレンタルコントロールという。

①ペアレンタルコントロールとは「ホフマンさんの18の契約書」に網羅されている②インターネットとは何か「子どもの有害情報」とは何か③ペアレンタルコントロールの重要性④賢い親を増やそう等、を豊富な事例やエピソードを取り入れて説得力のある講義であった。

インターネット時代の青少年健全育成は、社会教育プログラムとしてホフマンさんのような考え方を基に、インターネットを快樂的な使い方をせず、夢のもてる利用の仕方を啓発していく活動であって欲しいと結ばれた。（記録係 村田靖子）



講義⑧青少年育成国民運動の流れを理解し今後の方向を学びました。（60分）

講師（旧）青少年育成国民会議副会長、元アド養成研修チューター 上村 文三

【概要】今、大人達（保護者）はどういう視点で子どもを育てていくか悩んでいるのではな

いか。

この状況は、昭和40年全国協議会で青少年育成の国民運動が叫ばれた頃と似ている。当時の課題は、敗戦後の貧困による青少年の非行対策、それと時代の担い手として21世紀に向けての青少年の育成であった。「青少年国民運動は、自らの活動と経験を通して自己形成しようとする青少年を最大限援助する事を基本的な目的とし---」が当時の理念、目的であった。



現在も青少年を取巻く状況は大変ではあるが、ほとんどの子供はのびのびと育っている。育成指導者はそれぞれの年代別の子ども・若者の現状を知ることにより課題も見え、また地域診断をしっかりと問題は何処にあるのか、育て方にあったのか、少子高齢化が要因か等、①目的・目標を決め ②発達の課題(時期)を知りそれに添った ③方法で保護、育成、

指導に当たり ④家庭、学校、地域、行政等との連携も視野に入れた活動をしていくことが望まれる。

総合的に青少年育成に関われる人であり、地域のリーダー的役割が望まれているのが青少年育成アドバイザーである。

これから活動をしようとする新会員も、現会員もいっそうの活躍を期待している。

「青少年育成国民会議」の発足当時から関わられた上村先生は、豊かな体験で培われたエピソードを織り交ぜての、青少年育成運動の経過と今後の指導者へのあるべき方向を説明された。(記録係 村田靖子)

グループワーク⑨ 現アドバイザーと受講生でそれぞれの地域の課題や講義で感じたことを出し合い、解決の糸口をさがりました。(90分)7グループに分かれて行い、ここでは、第5グループの内容を紹介します。

司会者 前 晴夫(和歌山県青少年育成アドバイザー協議会長)

「テーマ：地域の課題を出し合い、解決の糸口を探る～現状と解決への取り組み」(要約)

Nさん：色んな障害を持つ子供のお母さん達の居場所となれることを目指したNPO法人「らぼ〜る」の運営については、思いはあってもスタッフの不足や専門分野への不十分さ等があってお母さん達のお手伝いが出来ていない状況なので、勉強している。専門家および行政を動かすためには市議会議員等とのつながりが欲しい。ひきこもりや発達障害の子ども達と一緒に居てくれる大学生ボランティアが欲しい。

①困って助けて欲しい時にアドバイスが欲しい(例えば、ホームページが作れないので困っているなど) ②アド会員を養成している県民会議等はあるのか? ③「アドバイザー相談室」という看板などはどうか?

②地域で認知されるには身近なところから実行・活動し、今後はより濃厚にすること。

③今回の講座で、各大学が関わっていることを知り、又インターネットの問題点など色々と啓発された。

Mさん：石垣市の人口は4,8万人で市の中心部に90%が住んでいる

*負の連鎖：離婚率が非常に高く全国一(早婚が多いためか?) → 貧困な母子家庭・生活保護家庭が多い → 青少年の飲酒・喫煙など
(平成22年 子若法モデル事業 地域協議会を立上げて取り組み)

Fさん：アド会活動はマンネリ化し転換期にあって、新しい発想が生まれていないし、後継者と言えるジュニアリーダーを指導する人も少なくなっている
方向性が分りにくくなっているのでは?

Hさん：育成活動に対する熱意が低下している気がするが、県民会議等の組織率の低下に見られるように国民会議のような機関的存在が無くなったのが大きな要因ではないか。新たな視点・角度に立った国民運動レベルの再組織化が必要ではないか。

Tさん：アド会の行事(中学生ボランティアによるそうめん流しやゲームなど)は毎年決待ったことに取り組んでいるが、大人との交流が少なくなり子どもたちの面倒を見る大人が少なくなっている。

○さん：知的障害や自閉症、発達障害などの子どもたちのライフサイクルを理解し相談・サポートできる人材や安心できる場所(駆け込み寺)が必要。

色々話し合っ、明日からの中で生かせたらと思、改めて勉強でき良かった。



グループワークの第5グループの様子

「カウンセリング」の講義には、もっと長い時間を掛けて欲しかった。

Mさん：マスコミやインターネットの影響が大きいことを学び、地域などで話せる場を広げることも必要と思った。

Gさん：講義でスマートフォンなどの映像を見てモバイルの怖さが分ったが、子どもの発達段階に応じて母親たちが安心と安全の気持ちを持てることが必要。

Rさん：個人として保護司活動をしているが、家庭に原因があるとしても「育て方が悪い」

で終わらせてはいけないと思っている。養育環境等が脆弱な家庭に手を差し伸べてゆく必要(子どもの寄り添う気持ち:落ちこぼれにも気配り)。若者の就労支援サポートステーションでは、自宅から出られない者が多くなっていることへの対応として外へ引っ張り出す人が必要となっているように思う。

Gさん：地域・地元での活動の大切さを感じるので、積極的に春・夏祭りなどに行く。アド会の役割には、皆さんの活動に対して県・国等の役所からの協力が得られるように繋ぐ役割を大事にして行くと共に、お互いの活動に関して、成功あるいは失敗事例などの情報を共有できるネットワークが欲しい。

<司会者(リーダー)付記>

1. 新規受講者は、アド会の活動や組織についてほとんど知らないこともあって活動や組織の課題や問題点について、特に意見等はありませんでした。
2. また、各地域における子供や若者たちに関わる方たちばかりであったために、日常の様々な活動の中で色々な課題や問題、出来事に直面しており、その内容はそれぞれに非常に広範囲に亘りました。
3. このため、グループ討議では、「育成活動に関わる中での現状と課題、解決・・・」と言うテーマを与えられたが、それぞれの話の内容をかみ合わせることの難しさを感じました。このため討議にいたる前段階として、それぞれの活動内容や問題、悩み等を聞くだけで内容を深めることには至らなかった。
4. ただ、3日間の「講座」の内容については、多岐にわたりながらも非常に分りやすく突っ込んだ内容で笑いもあり、参加者みんなが今後それぞれの地域において活動の中で大いに参考になり生かせるのではという意見が多く聴かれました。

(記録者 前 晴夫)

☆ 第3日目 ☆

事例紹介⑩現青少年育成アドバイザーの模範的実践(自然環境保護や高校生の相談活動等)を発表し、そこから得た企画・行動のノウハウを学びました。(90分)

○ 島根県青少年育成アドバイザー協議会長 福田 悟

【要旨】自然活動を通して青少年育成に携わっている体験の発表。子どもの感性を大事に育てたいという思いがある。子どもは本来鋭い感覚と情緒を持っており、それに自然体験を加えることで、より感性が育まれていく。

この考えが根底となり、子ども達の先生は 山や海、雪そして夜の静かさ、などの自然現象を含む自然であるという信条を持って若い仲間達と実践している。

疑似体験ではない、本物の自然を肌で感じる経験を安全に学習する取組みである。



磯遊び、ジュニア登山入門、穴道湖での白鳥観察、国立公園大仙への登山---諸々の豊富な体験談であった。（記録係 村田靖子）

○ 宮城県青少年育成アドバイザー連絡協議会長 伊藤 順子



【要旨】尊敬する恩師から学んだ「心戒十訓」の紹介の後、ご自分が現在関わりを持つ私立高校でのカウンセラーとして「こころの支援システム」立ち上げの経緯、実践について発表された。

（１）生徒の相談（交友関係・家庭の問題・昼夜逆転・その他）

①保健室からの相談依頼②担任③部活顧問④保護者⑤生徒本人⑥友人⑦その他

（２）保護者相談 （３）教職員相談 （４）その他

具体的な事例報告もそこかしこに織り交ぜてのお話であった。加えてカウンセラーとして効果を上げる為に、「笑いヨガ」の資格を得て実践し、コミュニケーション指導に取り入れている。また生徒の関係性が良くなる為の情報収集として児童相談所、精神科医、警察等他機関との連携も心掛けている。

最後に、参加者全員が「笑いヨガ」でスキンシップ、アイコンタクトの指導を受けてリラックスしての終了となった。（記録係 村田靖子）

講義⑪地域には様々な青少年団体や育成機関があり、隣のおじさんやおばさんもいます。それらと連携し「地域の子どもは地域で育てる」環境をつくるにはどのような考え方と手法で取組めばよいか学びました。（60分）

---大人が変われば子どもも変わる---

講師：愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会相談役 小田 元一

【要旨】警察署生活安全課少年担当という仕事柄、子供を取り扱うことが多い。

その子供達が健やかに過ごす為にボランティアが必要であり、そのボランティアの指導に当たる青少年育成アドバイザーが重要になってくる。

自ら受講、認定を得てアドバイザー会に入ったお蔭で多くの人との出会いがあった。

アドバイザー講座での尊敬する先生との出会いにより、相談業務で行き詰った時に先生のある一言で、目から鱗の思いで随分開放された気分を得たこともある。



○ 青少年の非行・犯罪を防いでいく為に

- ・ 情報連携—お互いの機関が培ってきた努力を共有する
- ・ 行動連携—各分野の団体と繋がる
- ・ 役割連携—それぞれの役割をしっかりと果たしていく

この三つの連携を自ら実践し、大きな成果を挙げてきた。

○ 命の大切さ（いじめ、体罰、児童虐待---）

- ・ ボランティア指導者もスーパーバイザーが必要である、と共に青少年への命の大切さを指導して欲しい。
- ・ 暴力は、言葉で伝えられず暴力で訴えるのであり、コミュニケーション能力を上げることが暴力の減少に繋がっていく。
- ・ 反省は一人でもできるが、更生は一人では出来ない。立ち直りは周りの人達の支援があってこそ出来るもの。その為には私達大人の理解が必要である。

※「大人が変われば子どもも変わる」この標語は、今後も残していきたいものである。

愚痴を言うタイムを設け、名古屋（この講習会）のグチは名古屋に置いていって、という事で会場いっぱい笑いのグチ（勿論良い点も）が咲いたような、ユーモアのあるアンケートの取り方で、会場がより和らいだ。（記録係 村田靖子）

受講者の感想



前花 雄介 （沖縄県 石垣市青少年センター生活指導員 30代）

私は生活指導員として非行少年や引きこもり、不登校の児童生徒の支援に関わっています。いま直面している問題や課題への解決に、何かしら役に立つと思い受講を申し込みました。

青少年健全育成について熱心に考えている人たちが全国から集まっており、この講座で多種多様な人と出会えた事を嬉しく思いました。

そのなかでも群馬大学名誉教授の下田先生の講義が勉強になりました。未来を担う青少年にとってスマホやケータイが及ぼす影響は甚大で、それがもたらす被害は計り知れません。スマホやケータイの取り扱いをどのように考えるのかを伝えていきたいと思います。

三橋 綾香 （千葉県 大学4年）

今回講習会に参加して、地域の子を見守るとは、まず『自分自身が地域の一員だ』という意識を持ち、そのうえで地域の宝である子どもを大切に育てていくことだ』と学びました。

同じ地域に住んでいるのだという一体感が共有されれば、健全な青少年を育成することは地域住民の役目だという意識も生まれると思います。これからも自分の地域のことについて関心を持ち、青少年育成活動に携わっていききたいです。



河合美由紀（愛知県 20代）

アドバイザーの方からのお話を聞いて参加を決めました。人生経験豊富な方と交流ができ、良かったです。『やる気』が出ました。アドバイザーとはということも、大方は理解できました。

講習会を終え、今後について、『できることからやっていく』ことを目標にし、若いパワーを活かしていけたらと思います。

皆さんと協力して活動していく中で積む経験を、自分の成長の糧としたいと思います。そして、これから経験していく様々なことを次世代の青少年に伝えていけるよう、自分磨きをしたいと思います。

※河合さんは親（写真左）子で参加されました。

浅岡 弘彦 （富山県 県議会議員 40代）

この度は、既アドバイザーである少年補導の先輩である富山県の稲垣さんから講習会受講のお話を頂き参加致しました。

そして、今講習会では全国から集結した多くの方と交流し、多くの情報交換ができました。

また、青少年育成アドバイザーの歴史および活動について知る良い機会となりました。経験し、得られた情報は、自分自身のボランティア活動や仕事に対するの参考になり、そしてボランティア活動や仕事が自信を持ってやる事が可能な気が致します。

この講習会でお会いした皆さんの青少年健全育成に対する熱い思いに触れ、私も何かしらやらなければならない事があると感じました。

個人的には、今後、カウンセリングについての手法、それに関わる事例などの研究や、付随した諸問題について知識を深める機会を持っていききたいと思います。





青少年育成アドバイザー養成講習会の閉講式まで参加された皆さん

全日本アド連のホームページを立ち上げています

従来のホームページから新しいホームページを24年11月に立ち上げました。「全日本アド連」又は「<http://adoren.jp/>」の検索でヒットします。活動方針やアドバイザー養成講習会要項も載せました。一度ご覧いただき、ご感想や要望等いただきよりよいものをつくっていきたくと思っています。(事務局)愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会事務局長 峠 テル子 電話(0568)88-1050 携帯090-1989-7410

行事予定

平成25年度全日本青少年育成アドバイザー連合会総会・研究集会 in 札幌の開催

期 日 H25年6月22(土)13:00から23日(日)11:30まで1泊2日

会 場 札幌市札幌サンプラザ(Tel.011-758-3112)

内 容 第1日目

11:00~12:00 第3回理事会

13:00~14:15 総会

14:15~16:45 開会式、研修会

「研修テーマ:青少年育成アドバイザーの行動力UP作戦」サブテーマ(青少年育成アドバイザーとして目指していること(夢)、実現できたこと、苦心していること)を徹底討論して次回の研修会につなげよう

第2日目

9:30~11:30 記念講演、閉会式

テーマ「私と音楽人生」講師:渡部 大三郎さん

北海道教育大学岩見沢校音楽講師、元札幌交響楽団クラリネット奏者

申込み 4月30日までに、各県の青少年育成アドバイザー会又は〒063-0848

札幌市西区八軒8条西2丁目2-2 事務局長:石井光郎 携帯090-8279-919に申込むこと。

【編集後記】

日差しが強くなり身も心も浮き出す春がやってきました。各アド組織では総会の季節ではないかと思えます。全日本アド連のアドバイザー養成講習会は多くの新受講者を得て開催することができました。今回特集としてその概要を載せました。いかがだったでしょうか。

まもなく新アドバイザー2期生が巣立ちます。全日本アド連としては進むべき方向を示し、活動事例を増やし、アフタフォローをしていかなければならないと思えます。その観点からも札幌の総会は重要な会議となります。みなさまの参加をお待ちいたします。(編集担当)